

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき全ての職員が個々の利用者に対し計画を立案し実行している。理念はスタッフルーム・居間に掲げてあり、いつでも確認できる。	「お互いを尊重し、ひとりひとりの暮らしを大切にします」を理念とし6つのキーワードと共に掲げている。毎年職員にアンケートを実施し、話し合いにて理念を振り返り、共有と実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、地域ボランティアと交流している。毎日の買い物では、隣のスーパーに出かけ地域の人々との交流に努めている。	地域住民の殆どが組合員であり、母体の診療所、生協組合の事業、地域の回覧板、コミュニティセンターや、今年度は事業所前の掲示板設置を通じて地域と日常的に行き来する関係が構築されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の診療所、支援センターと共に地域の方からの福祉相談を受けている。又、実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態や評価への取り組みを報告し、出席者からの意見を管理会議や部署会議にて分析しサービス向上につなげている。	日頃の取り組みを報告し、話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。新年度より会議のメンバーに地域とのつながりを持っている方の参加を考えており、医師・看護師に参加してもらい医療・介護面を意識した地域との交流を図る予定である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営体制等、市の担当者・地域包括支援センター職員と連絡を取り相談、意見をもらい連携を図っている。2月に1回、市の介護相談員から来所してもらいサービスの向上に努めている。	日頃から市と連絡を取り、入居待機者の調整や相談、意見をもらい連携を図っている。長岡市では年2回、集団指導の場で市内グループホームと情報交換・交流を行い、協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束は行わないということを認識しており行っていない。法人・事業所内で身体拘束の研修を行っている。	同意書を含めたマニュアルを整備している。研修・会議等で正しく理解し、職員間で指摘しあえる環境に努めている。理念から「自由な暮らし」に向け、家族と相談し事故防止しながら、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で学習会を設け虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。法人独自のマニュアルを整備している。	組合内の研修で学ぶ機会を設けている。管理者は職員のストレスが虐待に繋がらないよう配慮し防止に努めている。とくに判断が困難な言葉の虐待が見過ごされることがないように、職員間で注意を払い、注意しあえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から講師・司法書士を招き学ぶ機会を設け、実際に活用し支援した。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の他、ホームでの生活についても丁寧に説明し納得してもらう努力をし、利用者や家族の立場に立った手続きにより、相互信頼を基盤としている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や要望等、話しやすい環境を整備し日々のケアに反映している。家族が意見を言いやすいように外部機関窓口設置の他、母体診療所玄関に意見箱を設置し運営に反映している。	年2回の家族会の開催や意見箱の設置にて、意見を表わせる機会を設けている。実際には日々のかかわりや運営推進会議、面会時等に直接言われる方が多く、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は年4回、職員の意見や提案を聞く会議を開催している。管理者は月1回の部署会議の他、職員アンケートを実施し運営に反映している。	管理者と職員は日頃より言い合える良好な関係ができています。毎月の職員会議や毎年のアンケート、個別面談の実施にて意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。職員意見を考慮した研修が課題と感じ、今年度は充実させる予定である。	他ホームの取り組みや重度化・看取りのケアを学びたい等、職員の意見、希望、能力に応じた計画的・段階的な内・外部研修を充実し、職員の育成と運営やサービスの質の向上につなげる更なる取り組みに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉関係資格の取得に対して資格手当の支給、賞与の支給、退職金共済加入による退職金制度、健康診断の実施等やりがいのある職場環境と条件に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人・事業所内で研修を行い、研修を受ける機会を設けている。外部研修の参加に職員のバラツキが見られるので、平均して受講できるよう努めたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修等、他事業所と交流を持ち、各種研修や事例検討等によりサービスの質向上を図っている。法人内の他施設と交換研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、本人や家族の身上を把握するとともに、その思いや不安を受け止め納得のいく説明や事前見学を実施したりし、安心と信頼が得られるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、家族の意向とホームに臨むこと等引き出し、安心と信頼が得られるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされているサービスを見極め、緊急性及び本人の背景を考慮し、他事業所と情報交換しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした環境の中、たがいに寄り添い共に生活し作業を一緒に行ったり、行動や会話から学び認め合い感謝しあっている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と寄り添うことを大切に、本人を支えていくための情報を共有し、協力していただいている。	日々の様子を伝え情報共有するとともに、行事参加や衣替えをきっかけに面会を促し、一緒に過ごす場を配慮している。家族とのかかわり、寄り添うことを大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来られた際はゆっくり過ごしていただくように支援している。アルバムを見たり、時に電話をかけたたり、外出時に馴染の場所へ寄らせていただいている。	一人ひとりの暮らしを大切に関係継続の支援に努めている。定期的に家族や知人が来られる方もおり、そこからお茶のボランティア等関係が広がった例がある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士声を掛け合う関係が築けている。孤立しがちな利用者には職員との関わりを通して周囲とのコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方に面会したり、サービス終了後も関わりが必要と思われる利用者や家族には、その都度連絡や相談を受ける体制がある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通じて個々の言動や表情等から思いや気持ちを推測するとともに、家族の希望や意向を聞きながら検討している。	日々の関わりで、まず思いや意向を聞き、表情や行動等から汲み取り把握に努めている。一人ひとりのケアに繋がられるよう、職員間の連絡ノートにて情報共有し、本人本位に検討している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、以前使われていたサービス事業所等から、情報を得て把握に努めている。	センター方式を活用し、入居時家族にシートの記入を依頼している。利用者、家族、関係者より総合的な把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや記録等により、個々の現状を伝えあい把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの言動等を見落とさず情報収集し、家族の意見や意向を聞きながら検討会で意見交換を行い、その方にあった介護計画を作成している。	計画作成担当者と居室担当職員が中心となり、検討会で計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し現状に即した計画を作成している。より本人本位の計画を目指し、家族参加の検討の機会を予定している。	本人本位の計画作成には、それぞれの意見やアイデアを話し合い、反映されることが大切である。予定されている家族参加の検討会実現に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や状態変化など個別の記録や連絡ノートを用い、全職員が情報を共有できるよう徹底している。又、介護計画の見直しや評価にも活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて母体診療所や法人機関と連携をとり、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや民生委員の方に来ていただくことで、生活に潤いをもっといただくようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している医療機関で受診している。又、日々の状態を主治医へ伝えたり、連絡を取り合っている。	本人・家族の希望を確認し、「ご家族ノート」等で情報を共有し、近隣の組合診療所を受診している方が殆どである。月2回の往診と看護師の訪問や24時間の連携体制が確立されており、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体診療所と医療連携体制加算契約により看護師が月2回の訪問による状態確認、24時間体制で気軽に相談ができ支援していただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者と情報交換を行い、早期退院に向けた対応に努めている。又、母体診療所医師に状況を伝え、退院後の対応について相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向を尊重し、家族・医師・看護師・職員と対応方針を話し合い、その人らしい終末期を迎えられるよう情報を共有して支援に努める。	独自の看取り指針を策定し、組合診療所と体制を整備している。今回診療所看護師が看取りの「意向調査書」をとり、本人・家族と話し合いを行っている。今年度は職員の看取り教育に力を入れる予定である。方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講したり、個々の予測できる急変について母体診療所医師から指導していただいている。	年1回消防署員による救命講習を、地域住民にも声かけし受講している。個々の予測できる急変について、事例検討形式で組合診療所医師より指導を受け、急変・事故に備えている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・消火訓練を行い学んでいる。避難時、地域の方の協力を得られるよう働きかけ了解を得ている。地震・水害避難マニュアルを法人が作成中である。	年2回消防署員の指導の下、地域住民にも声かけし避難訓練を実施している。連絡網には地域の組合員も入っており、連携体制ができている。備蓄・災害セットを準備している。県より依頼があり、大地震の経験を活かした災害マニュアルを作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動や対応には十分に注意し、互いに指摘しあえる環境作りに努めている。	研修・会議等で学び、日頃から職員間で意識し合い、互いに指摘しあえる環境に努めている。特に排泄時等でのさりげない言葉かけや対応に注意している。記録は目に触れない所で記入し、保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自己決定できる場面作りに努め、意思表示の困難な方には表情の読み取りや本人の雰囲気やキャッチしながら自己決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを保ちながら、本人の気持ちを尊重し個別性のある支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを本人や家族から聞きながら把握し、その人らしい身だしなみやができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる事を見極めながら、利用者と職員と一緒に準備や片付け、買物をしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、献立作り、買い物から片付けまで一連の食事づくりと一緒にしている。利用者同士の関わりや談笑しながらの食事は楽しみなものとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人施設の管理栄養士から、毎月献立を評価・指導していただいている。又、好みや能力によっては代替メニューを準備し栄養確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた見守りや介助を行っている。就寝前は義歯の預かりや洗浄を行うなど本人を配慮しつつ清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サイクルを把握し、状態に合わせた支援について検討し、取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、個々のサインや尿便意を見逃さず声かけやトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。日中はなるべくリハビリパンツ、布パンツを使用し、おむつ使用軽減ができています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取や食物繊維、乳製品を含む食品を使うほか、その人にあった運動を働きかけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆったりと入浴できるように時間や順番などの配慮、体調や状況にも柔軟に対応している。	一人ひとりの希望、タイミング、体調、状況に合わせて入浴を楽しめるように、時間や順番等を調整し、個々にそった支援をしている。拒否の方には無理強いをせず、足浴・清拭等で対処したり、家族の協力を得て支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせ、休息が取れるよう配慮している。眠れない方には、話を傾聴したり温かい飲み物をお出しするなどし、安眠につながるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを作成し職員が内容を把握できるように、また急変等において医療関係者へ速やかに情報提供出来るよう既往歴、現病なども記録している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの役割だけでなく、その方がこれまで過ごして来られた中での、役割や生活歴を大切に、楽しみ気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に、その日の天候や利用者の体調を考慮して、散歩や買い物、ドライブ等外出の機会を設けている。	一人ひとりの希望、体調、その日の天候を考慮し、隣のスーパーへ毎日2回の食材の買い物や近所の神社への散歩等、日常的な外出を支援している。外食や公園へのドライブ等、普段いけない場所へも支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の同意を得て所持されている方もいるが、その力量に差があるため個々に合った支援をしている。事業所で管理されている方も、希望通りお金を使うことができている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望による支援はもちろん、職員側からのさりげない働きかけでやり取りができている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、陽射しの強いときはロールカーテンで光の調節を行っている。食事時のテレビの音量にも気を配るようにしている。	玄関やフロアには地域の方や利用者の作品や写真、季節の装飾、草花が飾られ温かな雰囲気である。畳コーナーにソファの設置等、思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファ、畳コーナーなど思い思いに過ごせる場所がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人や家族に馴染みの物品の持ち込みを働きかけるとともに、入所後も外出時気に入った雑貨等を購入し居心地よい居室作りを支援している。	本人・家族と相談し、タンスやベッド、寝具等、馴染みのものを持ち込んだり、好みのものを購入、手作りのものや写真を飾り、本人らしい居室づくりを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて手摺りを増設したり、危険箇所はその都度対応を検討し改善に努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない